

親水公園—きれいな水を流す仕組み

1. きれいな流れ再現までの準備工事

一下水を側道下に付け替え

親水公園の長さは玉川通りから駒沢通りまでの870m。

きれいな水を流すための準備の第一歩は、川の兩岸の側道の地下に太い下水管を埋め、ここに生活排水などで汚れたこれまでの呑川の水を導いて、駒沢通りの先の暗渠までバイパスさせて流れるようにすることでした。

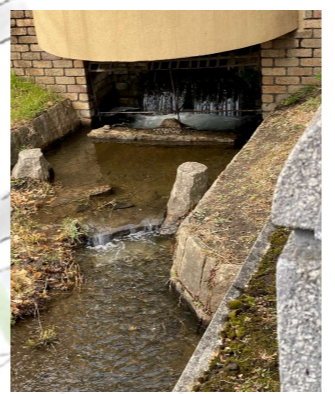
その後、水がなくなった公園用地は、ゴミや雑草の除去、堆積したヘドロの浚渫、水循環のための装置やパイプの設置、護岸の石積み、新しい流路作り、そして植栽など・・・と長い時間をかけて公園らしく姿を変えていきました。



側道の石畳と昔ながらの桜並木



シラサギが来ます



玉川通りデッキ下の放流口



カルガモが来ます



蛇行させた自然に近い流れは鳥たちの絶好の餌場です

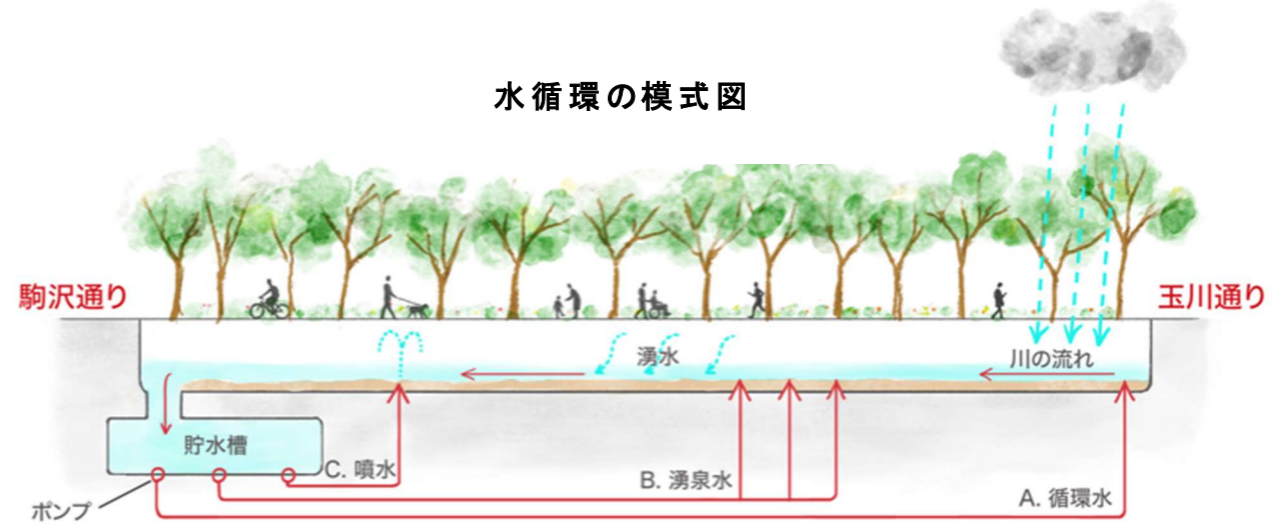


湧水が3基あります

3. 流れる水は循環しています

親水公園を流れる水は、流れ去ってしまうのではなく循環しています。

最上流部の玉川通り下から出て流れ下った水は、最下流部の駒沢通りの手前で、川底の下にある120tの大きな貯水槽に流れ込みます。この貯水槽からは下図に示すように何本もの送水管が出ていて、水はこの送水管で送り出され、川床の下を流れて上流のそれぞれの場所まで運ばれ放流されます。



送水管は3種類あります

- A 一番太い管は、最上流の玉川通り下まで行き放流
 - B 次に太い管は、途中さらに細く9本に分岐して、流れのあちらこちらの川床などから放流
 - C 一番細い管は駒沢通り近くの3基の噴水へ
- 貯水槽の水のたまり具合(水位)等により、送水ポンプのスイッチが自動的に入り、各送水管に送られるようになっています。
- (A、B、Cの管の太さは、ポンプの出口で、それぞれ内径150mm、125mm、75mmです。)



・水枯れした川べりをウォーキング中、突然玉川通りの下からドッと放流が始まりました。歩く速度の方が早く流れる水を追い越してしまいましたが、少し先の石の下からも別の流れが出て来ていて「あれ?」と思いましたが、ここからも放流されていたようです。

・去年は川の下流だけに咲いていた花が、今年は一気に全面に広がっている。きっとタネが循環水に乗って上流に運ばれたんでしょうね。

左上写真:あつという間に川全面に広がった半夏生(はんげしょう)

4. 水は、あふれないですか？

大雨などで流入量が増え川の水位が上がると、水は駒沢通り手前にあるオーバーフロー枡(左の写真奥の四角い枡)から抜け出て呑川緑道下の呑川(暗渠)に合流します。

・数年前の豪雨の時、川に流れ込んだ塵芥(草や木の枝、その他ごみ)がこの枡目を覆ってしまい、水が溢れ、道路が冠水して付近の住宅に浸水被害を出したことがありました。以後、公園管理事務所で、日ごろの水辺のごみ回収を注視力を注いでいるとのこと。また、大雨の恐れがある時、大雨の時、それぞれに対応した巡回を実施しているそうです。



オーバーフロー枡(最下流部)